

施策	81	交流による高付加価値化・国際化の推進	政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり
施策主管課	企画課	課長名	松尾 聡	内線	2220
政策担当部長名	企画部長 伊藤 実				
施策関係課名	リニア推進課、文化会館				
重点施策	○	関連計画	・リニア将来ビジョン、三遠南信地域連携ビジョン		

**1 施策の目的**

目的	対象	市民・行政
	意図	①飯田市や自分に無い知識や情報に触れ、相手にない情報を発信する ②市の付加価値を高め、国際化に対応していく

**2 現状把握**

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
① 住民人口	人	105,691	105,036	104,728	103,947		102,000
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理							
① 都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏除く)	%		13.8	11.8	12.9		15
② 大学・海外等との「共同」プロジェクトの数	数		2	2	2		5
③							

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	○新たな交流のきっかけづくりや支援をする(グローバルな視点を持つことができるような啓発活動を含む) ○リニア時代を見据え、付加価値を高め国際化に対応していくためのモデル的な事業に取り組む	・姉妹都市・友好都市提携、政策連携・防災協定などを締結した団体・組織の数 ①友好都市②市政提携③政策提携④防災協定	①	1	1	1
			②	1	1	1
			③	2	2	5
			④	177	214	200
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	○積極的な交流によって、新たな知識や情報などの共有化を推進し、地域づくりに役立てる。	・国際交流団体の数 ・交流をして、組織の内外に情報発信をしている団体・グループの数	・地域の高校生、大学生などの若者が海外研修(韓国)を行い、帰国後隣国についてさらに学び国際感覚を養うとともに、また郷土を見つめ直した			

**3. 平成24年度の評価結果**

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

#### 4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

##### 【施策全体の評価】

人形浄瑠璃を源流にもつ地域文化が国内最大級の人形劇イベントを行う地域となり、川本喜八郎氏の当地への人形寄贈により人形美術館が誕生したように「人形劇のまち飯田」が日本全体へ広がりを見せており、さらにAVIAMAの取り組みなどを通じて世界へつなげていきたい。このことは文化度の高い地域として地域価値を生み出すとともに、地域ブランドとして飯田の地を広く世界にまで発信していこうとする事業の意図を持って取り組んでいる。

リニアの時代にあっては、リニアの持つ特性から時間短縮、空間短縮が可能となり世界がより近くなることから、地域の個性が即世界につながる可能性が大きく高まる。よって、リニア推進ロードマップを基に市民参画による特色ある地域づくりを進める必要があることから、シャレットワークショップによる大学と地域の共同による課題研究など新しい地域価値を創造する人材育成の取り組みを行った。

##### 【事務事業群テーマ別の評価】

###### <都市間交流の意義啓発・発信>

###### ・[先進都市まちづくり交流事業]

地域の高校生、大学生等若者が海外(H25は韓国)の都市を学び、国際感覚を養うとともに郷土を見つめ直す学習を通じて将来の地域を支える人材の育成を図った。

###### [リニア推進事業]

リニア開業によって大都市圏との間で当地域が埋没することなく、より地域価値、存在価値を高める必要性を識者の講演会などを通じて地域住民が学ぶ機会とした。またリニア効果の最大化を図るための指針として「リニア推進ロードマップ」を策定した。

###### [人形劇のまち国際化推進事業]

人形劇を通じ地域レベルで国際的文化交流(国際的機構への参加等)を続け、常に世界とつながっている分野を持つことで世界に通ずる文化度を高めるとともに「飯田市」を世界へ発信した。

###### <大学等との連携強化>

###### [大学とのネットワーク構築事業]

フィールドスタディ・学輪IIDAの取り組みを通じて多くの大学との関係構築を進めるとともに、フィールドスタディの結果報告を地域へフィードバックすることによって外部からの視点により地域が自ら地域を学ぶ機会づくりに努めている。今後はより大学が持つ知見を地域の課題解決や人材育成に活かせるように域学連携を進めていきたい。

#### 5. 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

リニア推進ロードマップを基に戦略的地域づくりを進める。

- ・大学との連携を深めつつ地域固有の特性・特質を磨くような共同事業を行い、新たな付加価値を創出する。
- ・更なる他地域との交流を通じ、全国的に通用するもの、国際的に通用するものを見出していく。